

平成 28 年 6 月 8 日

市民ネット・社民・無所属一般質問
入江 晶子議員 配布資料

定時制生徒代表挨拶

定時制生徒代表 田中 将樹

濟んだ秋空に色づいた街路樹が映える季節となりました。この佳き日、木更津東高等学校全日制百周年、定時制併置六十周年の記念式典に参加させて頂いていただいたことを、定時制の生徒を代表して感謝いたします。

十一月になって、私が登校する時間にはすでに日は暮れ、寒さが身にしみます。肩をすぼめながら、校門を抜け、正心ホールに向かいます。ホールの戸をあけると、そこには、いつもの友達のと夕食の良いにおいが待っています。友達や先生と語らいながら、手作りの温かい給食をいただきます。私にとって、その時間は一日の中で一番ホッとする時間です。こうして、私たちの学校生活は始まります。

この私の通う定時制も今年で六十周年の歴史を持つことになりました。戦後まもなく勤労青年の「学びの場所」として創られた定時制は、昼は社会人として働き、夜は学ぶ「苦学生」という言葉がそのまま当てはまる学校であったと聞きました。その当時の先輩たちは、学びたいという熱意を持ち、また必要に迫られて学校に通っており、その勉学に対する取り組みは、真剣且つ意欲的であったと聞きます。

六十年を経た今、定時制高校に通う生徒は様変

わりしつつあります。勿論、一旦社会に出たのちに、再度学びたいという強い意欲を持った人もいます。その一方で、何らかの理由で、中学校の生活が十分できなかった人や、高校を途中でやめた人が数多くいます。その理由は様々です。家庭の事情や、肉体的・精神的な理由で登校できなくなったり、勉強につまづいてしまったり、それはどれもこれも決して、明るい話題ではありません。多くの生徒が、様々な悩みを抱えながらも、「やり直そう」と思って、通っています。

私たちにとって、この学校は、「何かを取り戻すための学校」であり、また「再びチャレンジするための学校」なのです。

私たちにとって、高校を卒業することは簡単ではありません。いつ挫けてもおかしくない出来事が繰り返す毎日です。しかし、この定時制には心のこもった暖かい給食に象徴される「人と人とのつながり」があります。

時を経て、変わった部分もありますが、この、多くの人に支えられ、時には人を支えながら学んでいくこと自体は六十年前と少しも変わっていないと思います。

創立百年、定時制六十周年の木更津東高校の「伝統」を心に刻み、脈々と受け継がれてきた人と人とのつながりに感謝しつつ、それを大切にしながら、今後の学校生活に励んでいくことをここに誓い、定時制生徒代表の言葉といたします。